

## 「海水浴場の嫌われ者 ～アンドンクラゲ～」

独立行政法人 水産大学校 生物生産学科  
教授 上野俊士郎

猛暑の8月、入道雲下に広がる青い海で海水浴を楽しんでいると、脇腹などにピリピリッと痛みが走ります。その患部が筋状に炎症を起こし、むず痒く、数日間悩まされることがあります。楽しい海水浴がまったく台無しです。

これはアンドンクラゲ(以下地方名の「イラ」と記述)のしわざです。私はイラを10年余り研究しており、今回のオープンラボではこの海水浴場の嫌われ者のイラを紹介します。



卒業生の中村君と中谷内君のデザイン  
の「頭にくらげ」

### 1. なぜ海水浴場にいるの？

イラは波静かな浅い沿岸域で生活するクラゲです。海水浴シーズンのちょうどこの時期に、餌を求めて海水浴場を泳ぎます。海水浴場の波打ち際近くには、小さな浮遊性甲殻類(アミなど)や稚魚が多く、これらを好んで捕食しているのです。

逆の見方をすると、イラの生息場所を海水浴で侵害しているとも言えますね。イラもビックリ仰天の接触事故ではないでしょうか。

### 2. いつからいつまでいるの？

イラは6月終わりにポリプからクラゲ体に遊離すると言われていています。ですから夏休み初めにはすでに海水浴場にいるのですが、まだ傘長1cm程の小さい体なので、人間に刺傷をあたえるほどのパワーがありません。しかし、お盆ころになると3cm前後まで成長して、稚魚などを捕食できるようになり、チクチクと刺すようになるのです。8月中下旬から9月頃がイラ達の生殖期間で、子供達をつくるために多くの餌を捕らえて栄養をとる必要があるようです。その後、12月くらいまで生息していますが、本来熱帯性の生物なので越冬はできません。

### 3. どんな体をしているの？

体はほとんど透明な箱状で、白っぽい4本の触手を引きながら泳ぎます。傘長の大きいもので5cm前後です。アンドンクラゲの和名は傘形が「行灯(あんどん)」に似ているからです。

### 4. 刺されるとどうして痛く、また痒いの？

刺傷が細長いミミズ腫れ状なのは、長い触手が皮膚に触れた跡です。触手上に無数にある刺胞が人間の皮膚に触れると、棘が飛び出し皮膚に突き刺さりますので、痛みを感じます。痛みの強弱は棘の大きさによるようです。また、管状の棘を通して注入された毒液が炎症などを起こして、痒いのです。

### 5. 刺されたら、どう処置をするの？

触手が皮膚に付着しているならば、ピンセットや割り箸でまず除去して、患部を水洗した後に、炎症止めの薬をぬると痒みなどが緩和されると言われています。冷水や氷で冷やすのも効果的です。それでも炎症が治まらないとか、気持ちが悪くなるようだったら、お医者さんに相談されるのが一番です。

一番やっていけないことは、付着した触手を除去せずに砂やタオルなどで患部をこすることで、刺症を拡大させ悪化させます。イラの刺胞毒は非常に強いのですが、触手が細くて刺胞が比較的少ないので、非常に多数に刺されないと、普通大事にいたるまではないでしょう。しかし、クラゲ毒はハチ毒と同様に刺されるたびに刺症がひどくなるといわれてますから、むやみに刺されるのはいけません。

## 6. 近縁なクラゲ達は？

イラは、ミズクラゲやタコクラゲと同様に刺胞動物です。しかし、ミズクラゲは鉢虫類で、一方イラは立方クラゲ類で、分類学上の所属グループが違います。

わが国で5種の立方クラゲが報告されてます。これらの立方クラゲ達は刺胞毒が強いことと、傘がほぼ透明で遊泳速度が速いのが特徴です。このうち、ハブクラゲは沖縄で刺症により死亡者まででています。

### 刺胞動物門

#### 立方クラゲ綱

##### アンドンクラゲ科

アンドンクラゲ *Carybdea rastoni* (下関の地方名「イラ」)

*C. sivickisi*

ヒクラゲ *Tamoya haplonema*

ミツウデリッポウクラゲ *Tripedalia cystophora*

##### ネットアイアンドンクラゲ科

ハブクラゲ *Chiropsalmus quadrigatus*

## 7. 刺されなくするには、どうしたら？

イラがいるので、お盆過ぎの海水浴場はほとんど閉鎖状態になります。もったいない話です。何とかイラに刺されない工夫はないもののでしょうか。いくつか妙案がありますので、紹介しましょう。まず、A)静かに泳ぐことです。バジャバジャと泳ぐと触手に触れやすいものです。浮き身の最中に刺されることはまずありません。B)瀬戸内海は少ないです。また、沖や河川水が影響するところにはほとんどいません。C)ウエットスーツや T シャツなどを着ると刺胞の棘が刺さるのを防げます。D)クラゲにさされない塗り薬が最近市販されています。

## 8. 最後に

イラは楽しい海水浴を台無しにする「海水浴場の嫌われ者」に違いありませんが、私は沿岸域の自然生態系の重要な構成員と思っています。イラは人知れず、自然の海で重要な働きをしていると思っていますが、まだ重要なのかそうでないのかまったく分かっていません。しかし、ただ不愉快な生き物だと言うことで、根絶やしにすることは、もっと危険なことだと思っています。

さて、私の皆さんへの提案ですが、イラと共存することを考えてみませんか？ また、イラを研究して重要な働きを見極めてみませんか？ 「嫌われ者」ではなくて、本当はすばらしい生物かもしれせんよ。